

# 五色百八一首 (黄色 20首) ・なんしおぼえられるかな?

文屋朝康  
白露に風の吹きしへ  
秋の野はつらめきとめぬ  
玉ぞ散りける



紀衣貞興  
久方の光のとけき  
春の日にしづ心なく  
花の散るらむ



春道列樹  
山川に風のかけたる  
しがらみは流れもあへぬ  
紅葉なりけり



藤原敏行朝臣  
住の江の岸に寄る波  
寄るさへや夢の通ひ路  
人目よくらむ



蝉丸  
これやこの行くも帰るも  
別れては知るも 知らぬも  
逢坂の関



安倍仲磨  
天の原 振りさけ見れば  
春日なる三笠の山に  
出でし月かも



持統天皇  
春過ぎて 夏来にけらし  
白妙の衣干すてふ  
天の香具山



左京大夫頭輔  
秋風に たなびく雲の  
絶え間より ちれ出づる月の  
影のさやけさ



源兼昌  
淡路島 通ふ千鳥の  
鳴く声に いく夜寝さめぬ  
舞麴の関守



小式部内侍  
大江山 いく野の道の  
遠ければ まだふみも見ず  
天の橋立



大納言公任  
津の音は 絶えて久しく  
なりぬれと 名こそ流れて  
なほ聞こえけれ



惠慶法師  
八重むぐら しげる宿の  
寂しさに 人こそ見えね  
秋は来にけり



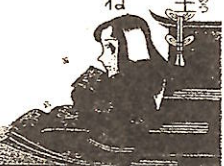
曾禰好忠  
由良の門を わたる舟人  
かちを絶え ゆくへも知らぬ  
恋の道かな



参議等  
浅茅生の 小野の縁原  
しのぶれど あまりてなどか  
人の恋しき



式子内親王  
玉の緒よ 絶えなば絶えね  
承らへば しのぶる事の  
弱りもぞする



俊恵法師  
夜もすがら 物思ふころは  
明けやうで ねやの隙さへ  
つれなかりけり



入道前太政大臣  
花さそふ 嵐の庭の  
雪ならで ぶりゆくものは  
わが身なりけり



参議雅経  
み吉野の 山の秋風  
さ夜更けて ふるさと寒く  
衣うつなり



寂蓮法師  
村雨の 露も まだ千ぬ  
まきの葉に 露立ちのほる  
秋の夕暮れ



後徳大寺左大臣  
ほととぎす 鳴きつる方を  
ながむれば だだ有明の  
月を残れる

